

【ご案内】 FTSE世界国債インデックス構成国の見直しについて/米国証券決済期間短縮化に伴う対応について

■ FTSE世界国債インデックスの構成国の見直しについて

FTSE Russell社では、「市場アクセシビリティ・レベル」、「市場規模」、「信用等级付け」の3つのインデックス基準に基づき、定期的にインデックス構成国の見直しを行っています。

同社は2024年3月の見直しにおいて、ポルトガルがインデックス採用基準を全て満たしたと判断し、ポルトガル国債を2024年11月よりFTSE世界国債インデックスへ追加することを発表しました。

【組入れ時期】

2024年11月インデックス(2024年10月末)

【組入れ比率】

2024年2月末時点に基づくFTSE Russell社の概算では、FTSE世界国債(除く日本)インデックスへの組入れ比率は0.68%程度と想定されます。

<ご参考>

●インデックス採用基準

以下の3つの採用条件を満たすこと

- ①市場アクセシビリティ・レベルが最上位の2であること
- ②市場の額面総額合計が500億米ドル、400億ユーロ、5兆円を上回ること
- ③発行体の自国通貨建て長期債務の格付けが、S&P社とムーディーズ社の双方でA-/A3以上であること(但し③については、9月の年次レビュー時と変更適用時の両時点で条件を満たす必要あり)

●市場アクセシビリティ・レベル

市場アクセシビリティ・レベルは、「市場、マクロ経済、規制環境」「外国為替市場の構造」「債券市場の構造」「グローバル決済およびカस्टディ」の4つの側面で判定し、「2、1、0」の3段階で評価。

■ 米国証券決済期間短縮化に伴う対応について

2023年2月、米国証券取引委員会(SEC)は、流動性および信用取引等に係るリスク低減を目的とした証券決済期間の短縮を発表しました。米国の株式・債券を含むDTC決済(※)の証券取引にかかる標準的な決済日が、従来よりも1営業日短縮されることとなります。これに伴い、三井住友トラスト・アセットマネジメントが運用する合同口での影響等について以下の通りご案内申し上げます。

※DTC決済:米国証券預託期間DTC(Depository Trust Company)を介して行われる決済

【移行時期】

2024年5月28日

【影響範囲】

米国の株式・債券の組入れを行う全ての運用合同口が対象となります。

【移行に伴う影響について】

●お客さまにおける運用合同口の申込・約定・受渡の期間等について
標記については従来通りであり、特段の変更はございません。

●運用合同口内部における米国証券の決済対応について

運用合同口購入時におけるお客さまからの資金入金タイミングは従来通りのスケジュールを維持させていただく一方、ファンド内部での証券決済(付随する資金の支払)の標準的な決済期間が1営業日短縮されることから、タイミングを揃える対応が必要となります。

相対取引が原則となる債券取引では、発注先証券会社との間で証券決済タイミングを個別に調整し、受渡日を延長することで対応いたします。

市場取引が原則となる株式取引でも、債券と同様に発注先証券会社との交渉で決済タイミングを調整する対応とする方針です。一方で調整が難しい場合や、ファンド品質維持において有効でないと判断した場合には証券の発注を1営業日後倒しし、お客さまからの資金入金を待つ間の1営業日については株式先物でエクスポージャーを代替する対応とします。

尚、先物の使用等により万一推定TEがファンドで定める上限を超過した場合には別途ご報告させていただきます。